

内視鏡は、スコープの先端にフィルムを装填した胃カメラの時代から、先端のレンズで捉えた画像をグラスファイバーを通して手もと操作部で観察する方式へと変わり、さらに先端のCCDが得た画像情報をモニター画面に映し出す方式へと進歩してきました。



福本 学

■ 内科

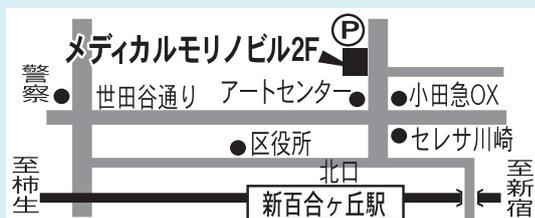
新百合山手福本内科

☎ 044-955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp/>



また白色光で観察するだけでなく、照射する光の波長を青色と緑色のみに狭帯域化したNBIのシステムや、青色レーザー光を用いたBLIなどの画像協調観察により、粘膜表層の微細な血管や表面構造を観察することで、病変の発見や範囲の認識、良性か悪性かの診断などに役立てられています。病変を詳細に観察するための拡大機能も進歩し、近年では約500倍の倍率で観察が可能な内視鏡も開発されています。病変を早期に発見し負担の少ない治療で完治するには、機器の進歩にまして、まず検査を受けることが何より大切です。